

クラス番号	617	担当教員名	吉村 譲
テーマ	児童養護施設を中心にして子どもと家族について考える		
著書・論文 研究課題等	(著書)『こどもと福祉 Vol. 1』「児童養護施設心理職の今後」 明石書店(P46～51) 2008年 (著書)『しあわせな明日を信じて』:共著 福村出版(P305～308) 2008年 (著書)『地域小規模児童養護施設の現状と課題』:共著 福村出版(P177～183) 2009年 (編著書)『児童養護施設でくらす「発達障害」の子どもたち』:共著 福村出版 2010年 (編著書)『どうしよう こんなときー児童養護施設の若き実践者のために』:共著 三学出版 2011年 (論文)「児童養護施設において心理担当職員ができることⅡ」『日本の児童福祉』19(P97～110) 2004年 (論文)「児童養護施設における心理担当職員の課題」ぎふ精神保健福祉第41巻第1号(P39～43) 岐阜県精神保健福祉協会 2005年 (論文)「児童養護施設における心理療法担当職員の活動の場作りについて」東邦学誌第39巻第1号 2010年		

ゼミナール概要

キーワード：児童養護施設、母子生活支援施設、心理療法担当職員

目的、内容、方法等：

担当者はこれまで教護院(現:児童自立支援施設)の心理職員、児童相談所の心理判定員(現:児童心理司)、児童養護施設、母子生活支援施設の心理担当職員といった子どもと関わる現場での仕事を多くしてきました。子どもと関わるときには子どもだけではなく、家族についても考えていかなければなりません。そういった視点を持ちながら、子どもの現場での職員の活動を考えていきたいと思っています。

(1) 児童養護施設における治療的活動について考える

- ・児童養護施設について理解し、プレイセラピー、カウンセリングといった心理治療だけでなく生活場面での治療的活動も考える。
- ・児童養護施設での子どもとの関係、職員間の連携、職員自身のケアなど課題について考え、学び合いたい。
- ・児童養護施設を理解するために施設実習などを自主的に行うことを希望する。

(2) 児童養護施設の子どもの家族理解と支援について考える

- ・家族の理解だけでなく、生活担当職員、ファミリーソーシャルワーカー、心理担当職員など施設職員間の役割について考える。
- その他、家族との関わりの中での施設職員の活動について様々なことを学び合いたい。

(3) 母子生活支援施設での治療的活動について考える

母子生活支援施設にはDVの被害者である母子が生活している。そこでは生活支援とともに治療的活動が行われている。

- ・母子生活支援施設について理解する。施設実習などを自主的に行うことを希望する。
- ・母子生活支援施設で行われている支援、治療的な活動について学び、課題について考える。

その他、母子生活支援施設での治療的な活動など様々なことを学び合いたい。

以上のような内容を中心に進めていきたいと思っていますが、さらに広汎な子どもと家族に関わる様々なことを研究したいと思っています。

ゼミの中ではケースについても考えていくこともあると思いますので、秘密を守ってもらわなければなりません。担当者は非常勤であるため、ゼミのメンバーと大学でいつも会えるわけではありません。そのため自分で考えて研究をすすめていってもらわなければなりません。

授業計画：

3年時から文献を読んだり、施設見学をしたりして、自分の興味を広げ、深めていく作業をしてもらいます。それらをゼミで報告し、話し合うという作業を3年生から行い、テーマを設定してもらいます。そして4年生には調査を進め、卒業論文を完成していただきたいと考えています。

担当教員からのメッセージ



メンバー各自がテーマを持って、意欲的に学び合う場になればよいと思っています。児童養護施設などの子どもや家族と関わる現場で仕事をしようと思っている人にとって役立つような場になるようにしたいと思っていますので、子どもの施設などで働こうと思っている人がメンバーになってもらうことを望みます。